

「第3回神戸市社会的養育推進にかかる検討委員会」での主な意見

○アンケートについて

- ・里親、ファミリーホームは、もう少し回答数が増えてほしい。回答数が増えるような工夫ができなかったか。
- ・児童養護施設では第三者評価を受けており、入所しているこどもが利用者アンケートを回答するので、慣れもあったと思う。
- ・アンケートは、支援者側からすると自分たちの評価になるので、抵抗感があると思うが、施設関係者は評価が必要だと理解している。里親・ファミリーホームは、評価への理解が十分ではなかったと感じた。
- ・項目とそれに対する回答については、経年で見えていかないと、数字を評価するのが難しい。また、目標値を定めることもできるが、数字が高い低いで評価するのがとても難しく、設問に関するデータの取扱いについては、慎重に考えたほうがいいと感じた。

○「こどもの権利ノート」

- ・「こどもの権利ノート」を「知らない」というこどもが多い、十分伝わっていないので、こどもたちにどう説明していくのか考えていく必要がある。
- ・母子生活支援施設の「知っている」の結果が良くないので、団体として統一した方向性を決めていく必要があると感じた。

○意見箱

- ・意見箱の結果については、活用しているこどもおり、自由記述でもコメントがあって、ネガティブには捉えていない。意見が通らないこともあると思うが、こどもたちの中では一定機能していると思った。
- ・子どもの思う通りにならない意見があることを、こどもが理解してというか咀嚼できるか。こどもの権利は、意見を言うだけではないというところを今後どのように取り組んでいくかの考えていかないといけない。

○パーマネンシー保障

- ・パーマネンシー保障については、家庭養護を中心とした心理的親の下で、その人間関係をいかにして継続させていくかというのが主眼になっている。心理的親の存在をできるだけ確保していくということがパーマネンシーへと繋がっているような受け止め方をしている。
- ・パーマネンシー保障については、一定、施設も担っている部分はあると思う。高年齢児など里親等につながらないこどもいる。

○親子関係再構築

- ・施設の機能としてカウンセリング、ペアレントトレーニングなど在宅支援ができないか。自立、アフター支援を担保しないと家庭復帰しても継続しない。
- ・親子関係再構築に向けた取組については、「調査研究する」という内容を盛り込んでいただきたい。

○自立支援

- ・自立支援を必要とするこどもの見込み数は、11年度で12名。児童数は減少するが、課題を抱えている子どもたちも多く、もう少し多くてもいいのではないか。
- ・施設退所者が数名集まって情報共有したり、悩みの相談を受けているが、退所児童に集まりがさらに増えていくという期待を持っている。

○妊産婦等生活援助事業

- ・母親としては、こどもと一緒にいたいということで、乳児院はハードルが高い。妊産婦が、子どもと一緒にいられるのであればニーズはあると思う。

○障害児入所施設

- ・例えば福祉型の施設に入っているこどものうち、何割が措置で何割が契約でとか、措置の子が一定数いるのであれば、こども家庭センターが家庭復帰に向けたファミリーソーシャルワークをしているので、こども家庭センターの出せる資料を基に議論はできないか。